

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・事業所の特徴	「要介護状態になっても地域とのつながりを絶やさない」「地域の中の施設」をコンセプトにしています。介護が必要になった人が家族や地域とのつながりを保ちながら、生活を送れるように「通い」「訪問」「泊まり」の3つのサービス形態を本人、家族の希望に合わせて柔軟に組み合わせ利用できます。「通い」「訪問」「泊まり」どのサービスを利用していつも顔なじみのスタッフがケアを行います。少人数登録制のため家庭的な雰囲気での他の利用者・スタッフと楽しく過ごすことができ認知症の方も不安なく過ごすことができます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護榎田屋	管理者	木村真人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援C	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	2人	0人	2人	1人	0人	3人	0人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認			外部評価などできない。 職員の人にやれと言われたからやったが、本当のことを言うと全く分からない 分かる人だけすればいいのでは？ 自分たちも施設のことについてはよく分からないのが現状。今年も国の方針で決められたので、是非参加していただきたい	個別に日時を決めて詳しく説明する機会を設ける。 外部評価を理解していただく為の説明が少なく、それを行う為の事前準備も足りなかった。 職員側も外部評価の手順を見直し、理解を深めるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境			小規模に入ったことがないので分からない。どこか小規模なのか看板もないので分からない。入ったこともないので評価もできない。 以前母親が利用して入ったことはあったので、主観でつけさせてもらった。 開所当時は住民が反対していたが、最近はそのような声が聞かれなくなった。上手に対応されているのだと思う。地域がそこに施設を建てていいと許可しているということ。今更評価しろと言われてもできない。 小規模に別件で用事があり行ったことがあるのでその時の様子から評価させてもらった。	季節の雰囲気が感じられるような環境作りを継続する。

C. 事業所と地域のかかわり			<p>身につまされた心配事がないので、相談しやすい場所かどうか分からない。町内にきた心配事は民生委員に集約している</p>	<p>事業所の内容を広報誌などで地域にお知らせする。 サポートセンター摂田屋が現在地域と関わっている取組を今後も継続する。</p>
D. 地域に出向いて本人の暮らしをささえる取組み			<p>地域に馴染もうとする姿が見られている。センターからの発信が多い。地域と一緒にやろうとする姿勢が見られている。月1回体操に来ているがよく分かる。運営推進会議で出される写真を見ても小規模なのか特養なのかGHなのか区別ができない。小規模がどの程度参加しているのか分からない。小規模とのやり取りで相談の実績があった。利用者とのように関わっているのか実際のところは分からない。質問の意味が全く分からない。</p>	<p>せったや便り（広報）やせったやカフェなどで小規模の紹介をする。 サポートセンター摂田屋が現在地域と関わっている取組を今後も継続する。</p>
E. 運営推進会議を活かした取組み			<p>事例検討会議を定例ではなくても、必要に応じて市の人も含めて検討してはどうか。 職員駐車場の件がすぐに改善された。（子供が遊ぶので危険）</p>	<p>運営推進会議で議題に上がった内容はできるだけ迅速に対応する。 自由意見の通り、必要に応じて市の方を含めて検討していく。</p>
F. 事業所の防災・災害対策			<p>詳しい計画書は必要ない。全体像が分かればいい。</p>	<p>防災・災害対策の仕組みを書面で説明する。 地域の防災訓練に今後も継続して参加する。</p>